

看護職に期待される「人を動かす力」

東邦看護学会理事長 齋藤 益子

今日は、価値観の多様化時代である。医療の中でも様々な価値観が形成され、特に医師に対する絶対的信頼感は大きかった。医療に関する様々な決定は医師の決定に委ねられ、他の医療職は医師の指示の基に働くことが当たり前で、看護の領域においても看護者独自の判断は少ない状況が続いてきた。

しかし新しい時代の流れは、これまでの医師を頂点にした病気を中心とした医療から、患者を「病気を持った人間」として捉え、それぞれの職種が連携して専門性を出し合い、チームで医療を推進していく方向に変わりつつある。このような時代のなかで、看護職にはどのような役割が期待されているのか考えてみたい。

昨今、専門看護師や認定看護師が病院内でその専門性を生かして活躍する施設が増えてきている。また、医行為の一部を補助する「特定看護師」についても議論されている。看護師は、法的には「診療の補助及び療養上の世話をする」とされており、患者の治療・療養生活が良い状態でなされる様に環境を整える役割が大きい。言い換えれば他職種は患者に点で関わるが、看護職は患者の入院生活全般に対して 24 時間昼夜別なく、面に関わり、自分の業務だけでなく、他職種の業務がスムーズにいく様に支援するという役割を持っていることになる。看護者は患者の入院中の日常生活を見守り、患者がいま何を思い、何を求めているのか、その心理社会的側面まで捉えて必要な援助を整えているのである。

厚労省のチーム医療検討会でも、チーム医療の

キーパーソンとしての役割を看護師に求めている。病院を家庭に例えるならば、看護師は主婦で、他職種は家族である。家族がスムーズに自分の役割を果たせる様に看護師は心配りをし、潤滑油と



して機能することも求められる。しかもこの役割を担いつつ、看護独自の機能をも遂行しなければならない。看護独自の機能とは、何よりも患者の心に近い存在であることである。患者が求めていることが分かれば、それを満たすために関係者へ働きかけ、足りない場合は時には看護職自らが満たす努力をすることも求められる。そのためには、多くを受け入れることの出来るキャパシティをもち、自己を高め広げる努力をしなければならない。妊娠中に関わったある妊婦さんが出産後に、「助産師さんはまるで天使でした。若いのに本当に優しく関わってくれました。安心して出産できました」と、いうメッセージを届けてくれた。

患者が満足して入院生活を送り、安心して過ごせる環境を整えること、言葉で言うと簡単であるが、環境を整えることの中には、人間関係を整えることでもあり、実際には大変なことだと思う。病院の看護の質は、その様なことが自然に出来る看護師がどの位いるかで決まるのではないかとさえ思う。チーム医療が推進されていくなかで、その中心的存在として、関係者を「動かす力」を多くの看護者が身に付けて欲しいと願っている。

東邦看護学会委員会の紹介

学会誌編集

出野 慶子	東邦大学看護学部
山田 緑	東邦大学看護学部
都橋 薫	東邦大学法人本部看護企画室
菊地 由美	東邦大学看護学部
長谷川直人	東邦大学看護学部
橋本 裕	東邦大学医療センター大森病院

活動内容

研究会誌から学会誌になって今年で3年目を迎えます。今年度より機関リポジトリに登録することになり、研究の成果がインターネット上のデータベースに掲載されます。そのため、研究内容もさることながら倫理審査委員会での承認、使用した尺度の許諾、著作権への抵触（パンフレット中のキャラクター絵など）については、編集委員会でもチェックをより強化していく必要があります。まだまだ発展途上の学会誌ではありますが、学会誌としてのクオリティーがあがるように投稿者と査読者との橋渡しをしながら編集作業を行っていきたくと考えております。

皆様からの投稿論文をお待ちしております。

研究活動支援

福田美和子	東邦大学看護学部
鈴木 康美	東邦大学看護キャリア支援センター
津野 陽子	東邦大学看護学部
三條真紀子	東邦大学看護学部
富岡 由美	東邦大学看護学部

活動内容

研究活動支援委員会が発足して3年が経過しました。本委員会は研究奨励金の授与を中心として、研究が実施可能となるよう、またより研究の質が高くなるように、サポートすることを目的として活動しています。

奨励金には研究助成金と学術集会賞の2種類あります。研究助成金は、研究に必要な文献の取り寄せ費用や図書購入費用、実験器具や録音機器とその消耗品などの購入費用など研究費を助成し、よりよい環境で研究が行えるよう整えるものでもあります。毎年7月末に研究計画書（ホームページ参照）を提出していただき、審査ののち必要経費に対して助成を行っておりますので、多くの研究費を使う研究を計画されているかたに活用していただきたいと思います。

学術集会賞は、12月に行われる学術集会で発表された演題のうち今後の発展が見込めるものに対し受賞するものです。賞状と金一封が授与されますので、学術集会で成果を発表する糧にしたいと思っております。

広報

横井 郁子	東邦大学看護学部
畑中 晃子	東邦大学医療センター大森病院
山城 久典	東邦大学看護学部
影山 美子	東邦大学医療センター大橋病院
林 弥生	東邦大学医療センター佐倉病院
安武 綾	東邦大学看護学部

活動内容

ホームページの維持、管理、ニュースレター作成のための原稿依頼、取材や撮影、そして印刷業者とのやり取り等、広報に関わるおおよその業務をメンバー全員が経験したこの2年間でした。任期最終年、次期メンバーに業務を円滑に引き継げる準備をしつつ、東邦看護が発信する情報について、改めて吟味する1年としたいと思っています。

庶務

出射 明子	東邦大学法人本部看護企画室
寺口 恵子	東邦大学医療センター佐倉病院
山崎 圭子	東邦大学看護学部
鈴木明由美	東邦大学看護学部
小笠原典子	東邦大学看護学部

活動内容

会員名簿管理、理事会・評議員会の事務局としての活動をしています。

今年から、会員名簿管理をシステム化しました。うまく機能させていきたいと思っています。

今後とも、学会を盛り上げていくためのご意見をお寄せください。

会計

菊地 京子	東邦大学医療センター大橋病院
鈴木 良美	東邦大学看護学部
金山 明子	東邦大学看護学部

活動内容

「東邦看護学会」に名称が変わり、会費は3000円となりました。会員もすでに1500名を越えております。皆様の会費を大切に活用させていただきます。

第12回東邦看護学会学術集会開催にむけて

第12回東邦看護学会学術集会会長 寺口 恵子
(東邦大学医療センター佐倉病院)

チーム医療の重要性が注目されるようになって10年余りがたちますが、その背景として、国民の医療ニーズの高まりがあげられます。高齢化の問題、少子化の問題、疾病構造の変化等々が要因ですが、国民の保健医療ニーズが多様化し、医療面だけではなく社会福祉面の支援も求められています。

厚生労働省はチーム医療の推進に関する検討会報告書においてチーム医療を「医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること」と一般的には理解されていると述べています。

チーム医療には医師・看護師・薬剤師・理学療法士・検査技師・放射線技師等々多くの職種が関わり、これら全ての職種が患者を中心に行動するということが重要です。患者は医学的問題や心理的問題、社会的問題を抱えた方々であり、すべての職種の人たちがその問題解決を図っていく、それがチーム医療であると思います。

医療現場の現状は、医師・看護師に限らずマンパワーの限界があり、今後少子化によってこの問題はさらにクローズアップされるのではないかと思います。病院では日々多くの問題が起きていますが、その背景には医療者と患者間のコミュニケーションギャップ、そして医療者間のコミュニケーションギャップがあります。そのような中で、質の高い医療を提供するためには、看護師が多職種間のコーディネーターとして患者・医療者をつなぐ役割を担うことが求められています。

昨今は平均在院日数が短縮し、医療が病院から

在宅にシフトしています。医療依存度が高く、退院後も治療の継続や療養支援が必要な方が多くなっており、退院時における継続看護については、病院看護師と訪問看護師の関わりが重要で、本人の望む療養生活が送れるか否かは、病院・在宅双方の看護師がどのような役割を果たすかがカギとなっています。

2012年度診療報酬・介護報酬同時改定を受け、“つなぎ、支える看護”を行うためにはこのような連携強化が必要となっています。

そこで、第12回東邦看護学会学術集会のテーマを「描こう看護の未来図、～患者・家族の思いをつなぐ～」とし、急性期病院の看護師が持ちたい在宅療養に“つなげる視点”について考えたいと思います。

開催日は平成24年12月15日(土)で、会場は初めて佐倉地区(東邦大学佐倉看護専門学校・東邦大学医療センター佐倉病院)での開催となります。東邦大学看護チーム(東邦大学看護学部、佐倉看護専門学校、東邦大学医療センター3病院、看護キャリア支援センター、看護企画室、看護同窓会)が佐倉の地に集い、活発な意見交換を下さり、何かを持ち帰って頂けたら幸いです。

多くの方々の参加を学会スタッフ一同お待ちしております。



第12回東邦看護学会学術集会

メインテーマ **描こう看護の未来図 ～患者・家族の思いをつなぐ～**

大会長：寺口 恵子（東邦大学医療センター佐倉病院）

日時 平成24年12月15日（土） 9：00 開場

会場 東邦大学医療センター佐倉病院・東邦大学佐倉看護専門学校

研究に関する相談サロン開設のご案内

研究活動支援委員会では、来る12月15日（土）に東邦大学医療センター佐倉病院ならびに佐倉看護専門学校で開催される第12回東邦看護学会学術集会において、研究に関する相談サロンを設ける予定にしています。

研究に着手する前の研究テーマの絞り込みの段階や研究計画立案の段階での疑問、研究を一通り終えた後の投稿に関する疑問、発表を終えた研究をさらに発展させるための研究計画に関する疑問など、いろいろな疑問について個別に対応したいと考えております。また本委員会が企画運営している研究助成金に応募するための書類の書き方や、東邦看護学会誌への投稿ルールなどに関する相談も受け付けます。研究論文の書き方や文献リストの書き方などの相談も受け付けます。普段聞けないことやどこかで習った記憶があるけどあやふやなことなどについても、受け付けます。

学術集会での発表内容を聴いて、何か取り組んでみたいと思ったことについて、同僚どうして話し合いをする場としてサロンを使っていたいただいても構いません。次年度、病棟で看護研究を担当することになりそうな方や、学術集会で発表を終え

た直後の方、個人的に研究をすすめてみたいと考えているが相談窓口がなく困っている方など、是非お立ち寄りください。

「研究！」と身構えてしまうあなたにこそ利用していただき、より身近なものに感じていただけるようサポートをしたいと思っております。

サロンの時間と場所については、追って、学術集会のプログラムに掲載しますので、ご参照いただき、多くの方に利用していただければと存じます。研究活動支援委員一同、皆様のお越しをお待ちしております。



NEWS LETTER

ニュースレター事務局

〒143-0015 東京都大田区大森西 4-16-20

TEL 03-3762-9881

FAX 03-3766-3914